

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

【担当教員名】 栗崎 由貴子	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：G10】

成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に生じる言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・認知症・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。

【学習目標・行動目標：SBO】

1. 失語症の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べるができる
2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる
3. 失語の言語症状を説明するとともに、他の症状と鑑別することができる
4. 失語の分類名を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる
5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる
6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる
7. 失語の予後についてその概略を説明できる

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語症学の歴史 / 定義	1	講義、VTR
2	症状 1	2	講義、VTR
3	症状 2	3, 5	講義
4	症状 3	6	講義
5	病巣	6	講義
6	失語症候群 1	2	講義
7	失語症候群 2	3	講義
8	認知神経心理学モデル	4	講義、VTR
9	評価の流れ	4	講義、VTR
10	評価の実際 - 1	5	講義、VTR
11	掘り下げ検査 - 1	3	講義
12	掘り下げ検査 - 2	3	講義
13	掘り下げ検査 - 3	3	講義、VTR
14	総合的失語症検査 - 1	1-7	講義
15	総合的失語症検査 - 2	1-7	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	言語治療マニュアル	伊藤元信・笹沼澄子 編集	医歯薬出版	2010・6,720円
	失語症学	藤田郁代・立石雅子 監修	医学書院	2009・5,250円
参考書	脳卒中後のコミュニケーション障害 改定第2版	竹内愛子 編著	協同医書出版	2012・5,600円＋税
	よくわかる失語症と高次脳機能障害	種村純・鹿島晴雄 編集	永井書店	2003・9,450円
	失語症言語治療の基礎	紺野加奈江	診断と治療社	2001・3,500円
その他の資料				

【評価方法】

出席状況と小テスト、提出物、期末試験により評価する。

【履修上の留意点】